

	ゼミナール名	ゼミナール I (刑事法)		
	ゼミ担当者名	秋山 栄一		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	刑事法という分野をイメージする。
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生各々が興味と関心をもった刑事法学上の基礎的な論点・テーマについて、個別報告及び皆で検討ができるようになる。</li> <li>・法律学科で実施されているゼミ発表会にエントリーし、報告を行うことができる。</li> <li>・刑事法学を手段として、他者の存在を自覚し、物事に対する深い洞察力とそれに対する的確な判断力を養う素地をつくる。</li> </ul>
ゼミの概要	<p>本ゼミナールでは、「法律事例研究Ⅰ」の講義等を前提として、刑法学、刑事訴訟法学及び刑事政策学(刑事学)を概観し、刑事法学における基礎的な論点を検討する。ゼミナールの進行については、まず、対話形式で各刑事法の分野の内容を概観する。その後、学生自身が興味・関心をもつテーマを選択し、順次報告・発表していき、皆で検討するという形式を予定している。ただし、後述の授業計画については、学生の理解度、履修状況により、変更されることがある。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃、マスコミなどを通じて報道される社会の現象に関心をもつこと。</li> <li>・指定されたテキスト、資料を事前に検討することを怠らないこと(1.5時間程度)。</li> <li>・各々設定したテーマについて、適宜図書館等を活用し、調べ、まとめるために、ゼミナール以外の時間の準備を怠らないこと(1.5時間程度)。</li> </ul>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・刑事法学に興味と関心をもっていること。</li> <li>・ゼミナールのルールを遵守できること(報告・発表の遵守、日頃からゼミメンバー同士・秋山とコミュニケーションがとれる、ゼミ行事の参加などのゼミ運営への協力等、詳細はゼミにて説明する)。</li> <li>・「法律事例研究Ⅰ」を履修済みであること、『法律事例研究Ⅱ』『刑法総論』『刑法各論』を履修していること。</li> <li>・必要な予習、復習が必ずできること。</li> <li>・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、単位を認定できない。</li> <li>・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。</li> <li>・授業中に無許可で退出した場合は欠席とする。</li> </ul>
テキスト	適宜、指示・紹介する。
参考文献・資料	<p>前田雅英他編『条解刑法〔第4版〕』弘文堂・2020、吉開多一他『基本刑事訴訟法Ⅰ手続理解編』日本評論社・2020、同『基本刑事訴訟法Ⅱ論点理解編』日本評論社・2021、覺正豊和『刑事政策論』八千代出版・2017、岩井宜子『刑事政策〔第7版〕』尚学社・2018等。その他ゼミで適宜指示、紹介する。</p>
成績評価の方法	定期試験 40%、報告・発表、姿勢 60%の割合で厳正に評価する。
オフィスアワー	<p>原則として、月曜日 14:40~16:10、水曜日 14:40~16:10  ※ 事前に連絡をもらえるとありがたい。その他時間が空いていれば適宜対応する。</p>

成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	ゼミナールIは、学生が本格的に学問を行うためのスタートに立つ準備段階といえます。知的世界の深みの一端をともに感じるようになるためにも、事前の準備をしっかりと行っていきましょう。また、自分のテーマに興味と関心を持つことは当然のことですが、自分以外のゼミのメンバーのテーマにも関心をもつことが重要です。それが自分のテーマの理解にも役立つことは当然のことだからです。ゼミの仲間とともに、多くの楽しみを見つけることもできればと考えています。

授業計画			
第1回	ガイダンス、刑法の基礎	第17回	刑事訴訟法の基礎 刑事手続の流れ①
第2回	構成要件該当性①	第18回	刑事手続の流れ②
第3回	〃 ②	第19回	わが国の刑事訴訟法の特徴
第4回	〃 ③	第20回	犯罪とその原因
第5回	違法性①	第21回	統計と犯罪現象
第6回	〃 ②	第22回	犯罪者の処遇
第7回	責任①	第23回	行刑と更生保護
第8回	〃 ②	第24回	まとめ 学生のテーマの設定の確認
第9回	未遂	第25回	各々のテーマについて学生個別報告・検討1
第10回	共犯①	第26回	〃 2
第11回	〃 ②	第27回	〃 3
第12回	個人的法益に対する罪①	第28回	〃 4
第13回	〃 ②	第29回	〃 5
第14回	社会的法益に対する罪①	第30回	〃 6
第15回	〃 ②	第31回	フィードバック
第16回	国家的法益に対する罪	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (経営学)		
	ゼミ担当者名	石川 雅敏 (いしかわ まさはる)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	地域経済に貢献している企業の経営戦略について学ぶ。 経済発展を促すイノベーションの特性と発生メカニズムを学ぶ。
ゼミの到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1) 地域企業が外部環境の変化にどのような戦略で対応しているかが理解できる。 2) イノベーションの特質の基本を知ることができる。
ゼミの概要	研究対象とする企業またはイノベーションを1つ選択し、外部環境の変化との関係性に特に注目して調査研究を行う。
授業時間外の学習	1) 経営戦略に関する基礎的知識の学習 2) 企業の経営情報の収集および解析
履修条件	経営学基礎論および経営組織論の単位を取得している事が望ましい。 上記の科目の単位を履修済みであることを前提に、授業を進めます。
テキスト	「イノベーション・マネジメント入門」(第2版) 一橋大学イノベーション研究センター編、 日本経済新聞社 (2017)
参考文献・資料	「イノベーションを興す」伊丹敬之、日本経済新聞出版社 (2009) 「イノベーションの歴史」橘川武郎、有斐閣 (2019)
成績評価の方法	授業における優れた意見の発出 (20%)、レポート (30%)、定期試験 (50%) 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 レポート課題は授業内で指示します。
オフィスアワー	毎週火曜日・木曜日 15:00~17:00 *これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	地域企業が外部環境の変化にどのように戦っているかを一緒に研究しましょう。

授業計画			
第1回	イントロダクション	第17回	企業調査
第2回	研究対象企業の候補探し	第18回	企業調査
第3回	研究対象企業の候補探し	第19回	企業調査
第4回	研究対象企業の候補探し	第20回	企業調査
第5回	候補企業の概要調査	第21回	企業調査
第6回	候補企業の概要調査	第22回	企業調査
第7回	候補企業の概要調査	第23回	企業調査
第8回	研究企業の選択	第24回	企業調査
第9回	研究企業の選択	第25回	企業調査
第10回	研究企業の選択	第26回	解析
第11回	研究計画策定	第27回	解析
第12回	研究計画策定	第28回	解析
第13回	研究計画策定	第29回	レポート作成
第14回	研究計画策定	第30回	レポート作成
第15回	研究計画策定	第31回	レポート作成
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (行動科学)		
	ゼミ担当者名	市原 光匡		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	教育学やその基礎となる行動科学の研究手法に触れ、研究の素地を養うとともに、その手法を用いて課題研究を行う。
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育学やその基盤としての行動学の研究枠組みを理解し、説明ができる。</li> <li>2. 個々の能力や適性、興味関心をもとに研究テーマを設定し、それにしたがって研究を行うことができる。</li> </ol>
ゼミの概要	<p>前期では、まず教育学に関するテキストを読み、教育学の対象と方法を理解するとともに、教育学研究に貢献する行動科学の基礎をふまえる。そのうえで、それぞれの関心をもとに学生自ら今後取り組む研究テーマを検討する。</p> <p>後期は、前期の学習をふまえ、それぞれ課題を設定し、個人またはグループで課題に取り組む。</p>
授業時間外の学習	現代の社会問題に関心を向け、自分なりの考えを主張できるようにしておきたい (1.5 時間程度)。また復習として、授業で取りあげる研究分野ごとにその研究方法や研究の意義などをふまえておくこと (1.5 時間程度)。
履修条件	<p>特に設けない。ただし、下記の要件を満たさなかった場合、特別の事情のあるものを除き単位の修得を認定しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度中に「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得すること (または修得済みであること)</li> </ul> <p><b>なお、履修を希望するものは、履修登録に先だって担当教員と面談し、履修の許可を得ること。履修の許可を得ないまま履修登録をしても、単位の修得を認定しない。</b></p>
テキスト	小川正人・森津太子・山口義枝〔編著〕『心理と教育を学ぶために』放送大学教育振興会、2012。 岡崎友典・永井聖二〔編著〕『教育学入門－教育を科学するとは－』放送大学教育振興会、2015。
参考文献・資料	必要に応じて適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での発表・報告 40%、平常点 40%、期末試験 20%の割合で評価を行う。 ・ 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができない。
オフィスアワー	毎週火・木曜日 13:00～14:30
成績評価基準	秀 (100～90 点)、優 (89～80 点)、良 (79～70 点)、可 (69～60 点)、不可 (59 点以下)
学生へのメッセージ	<p>学生の参加によって成り立つ授業である。時間と手間はかかるが、興味関心をもって積極的に参加すれば、他の授業では得られない発見や体験もできる。したがってゼミナールの活動には積極的に参加すること。また各回意見交換の機会を設けるので、ゼミナール内でのコミュニケーションを深め、他者と協働しながら学習をすすめていくこと。</p> <p>なお、やむをえない事情により欠席・遅刻する際にはその都度連絡すること。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	後期ガイダンス・計画実施状況の確認
第2回	文献講読①（教育学と近接の研究領域）	第18回	参考文献の報告会①（第1グループ）
第3回	文献講読②（教育学の研究対象と研究分野・研究方法）	第19回	参考文献の報告会②（第2グループ）
第4回	文献講読③（学習行動・学習者理解のための心理学研究（1））	第20回	参考文献の報告会③（第3グループ）
第5回	文献講読④（学習行動・学習者理解のための心理学研究（2））	第21回	文献講読⑪（学校の組織と文化）
第6回	問題意識の明確化	第22回	中間報告会（第1グループ）
第7回	研究テーマの設定	第23回	中間報告会（第2グループ）
第8回	研究テーマの報告・グルーピング	第24回	中間報告会（第3グループ）
第9回	文献講読⑤（学習行動・学習者理解のための社会学研究（1））	第25回	文献講読⑫（教育内容と教育方法）
第10回	文献講読⑥（学習行動・学習者理解のための社会学研究（2））	第26回	文献講読⑬（転換期における教育）
第11回	文献講読⑦（教育学の系譜（1））	第27回	文献講読⑭（教育の構造と機能）
第12回	文献講読⑧（教育学の系譜（2））	第28回	文献講読⑮（教育の文化的基礎）
第13回	文献講読⑨（近代社会の成立と学校）	第29回	最終報告会（第1グループ）
第14回	文献講読⑩（公教育制度の展開とゆらぎ）	第30回	最終報告会（第2グループ）
第15回	研究計画の策定	第31回	最終報告会（第3グループ）
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (社会政策)		
	ゼミ担当者名	木村 澄		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	「人間の一生をどのように保障するのか」
ゼミの到達目標	日本の「社会保険制度」に関する各種制度を概略的に理解して、みなさんの職業生活と人生において活かせるようにすることを目標とします。
ゼミの概要	日本の社会保障制度について、テーマ別に概観して行きます。毎回の発表はありません。
授業時間外の学習	配付するレジュメのコラムを見れば簡単な予習ができます。そうすることで、次のゼミの内容の理解が進みます。また、簡単な復習をすることで、ゼミ内容の理解を深めることができます。
履修条件	特にありません。
テキスト	ゼミナールの時間にレジュメや資料を配付します。
参考文献・資料	ゼミナール内で指示します。
成績評価の方法	<p>【出席状況(50%)、中間試験(25%) 期末試験(25%)】  上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。</li> <li>出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。</li> <li>演習中に無許可で退出した場合は欠席とします。</li> <li>授業の理解および予習・復習が充分であるかを確認するため、小テストを行うことがあります。</li> <li>レポート課題を課す場合は、授業内または掲示板(ポータルサイト含む)で指示をします。</li> </ul>
オフィスアワー	毎週月曜日 13:00~14:00・木曜日 14:40~15:40 ※これ以外の時間帯でも可能な限り対応します。
成績評価基準	秀(90~100点)、優(80~89点)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(0~59点)
学生へのメッセージ	皆さんの将来の職業生活や人生をとおして必ず役に立つゼミです。 「わかる・できる」ようになるを大切にしましょう。 できるだけ「楽しく」を目指します。

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第17回	後期オリエンテーション
第2回	社会政策の理論 (1)	第18回	医療保険制度 (1)
第3回	社会政策の理論 (2)	第19回	医療保険制度 (2)
第4回	社会政策の理論 (3)	第20回	医療保険制度 (3)
第5回	社会政策の理論 (4)	第21回	年金保険制度 (1)
第6回	社会政策の理論 (5)	第22回	年金保険制度 (2)
第7回	社会政策の理論 (6)	第23回	労働者災害補償保険制度 (1)
第8回	社会保障制度の生成	第24回	労働者災害補償保険制度 (2)
第9回	社会保障の役割と方法	第25回	労働者災害補償保険制度 (3)
第10回	イギリスの社会保障の歴史的発展 (1)	第26回	雇用保険制度 (1)
第11回	イギリスの社会保障の歴史的発展 (2)	第27回	雇用保険制度 (2)
第12回	日本の社会保障の歴史的発展 (1)	第28回	介護保険制度 (1)
第13回	日本の社会保障の歴史的発展 (2)	第29回	介護保険制度 (2)
第14回	生活保護法 (1)	第30回	介護保険制度 (3)
第15回	生活保護法 (2)	第31回	まとめ
第16回	中間試験	第32回	期末試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (財務会計)		
	ゼミ担当者名	國井法夫		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	日商簿記3級・日商簿記2級、税理士簿記論、宅建士、FP、医療等の資格取得を目指します。
ゼミの到達目標	1年間で日商簿記3級を全員取得すること。
ゼミの概要	各学生の目標に沿って各自がその資格取得に取り組む。
授業時間外の学習	ゼミとは別に週1回個別に私の研究室で問題演習をやる。
履修条件	ゼミを欠席しないこと。
テキスト	各学生の取得希望資格によりテキストを指定します。
参考文献・資料	
成績評価の方法	授業態度・出席状況・検定試験の合否・自分の目標を持っているかどうかを見て評価する。 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日 5時間目
成績評価基準	授業態度 70%・検定試験の合否 30% 秀 (90~100点)、優 (80~89点)、良 (70~79点)、可 (60~69点)、不可 (0~59点)
学生へのメッセージ	近年、楽な方に楽な方に流れる学生が多い。積極的に目標に向かって努力する人を希望します。

授業計画(簿記資格取得希望者)			
第1回	仕訳演習と面接	第17回	3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習
第2回	仕訳演習	第18回	3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習
第3回	試算表問題演習	第19回	3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習
第4回	試算表問題演習	第20回	3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習
第5回	決算整理と諸表作成	第21回	直前問題演習
第6回	決算整理と諸表作成	第22回	直前問題演習
第7回	日商簿記3級検定試験直前演習	第23回	直前問題演習
第8回	日商簿記3級検定試験直前演習	第24回	直前問題演習
第9回	日商簿記3級検定試験直前演習	第25回	直前問題演習
第10回	日商簿記3級検定試験直前演習	第26回	2月試験への2級・3級不合格者問題演習
第11回	3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習	第27回	2月試験への2級・3級不合格者問題演習
第12回	3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習	第28回	2月試験への2級・3級不合格者問題演習
第13回	3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習	第29回	2月試験への2級・3級不合格者問題演習
第14回	3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習	第30回	2月試験への2級・3級不合格者問題演習
第15回	3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習	第31回	
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (安全保障論)		
	ゼミ担当者名	佐藤 克枝		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	安全保障について学び、基本的な問題点を発見する。
ゼミの到達目標	<p>この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を習得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 国家の成立要件（住民・領土・政府・外交能力）を理解している。</li> <li>2 領域及び日本の領土問題の概要を理解している。</li> <li>3 防衛政策の基本（専守防衛）、日米安全保障体制が説明できる。</li> <li>4 国家安全保障戦略、事態対処法制、平和安全法制の概要を理解している。</li> <li>5 国連の集団安全保障体制と集団的自衛権の差異を理解している。</li> <li>6 武力攻撃事態への対処のための法律の概要を理解している。</li> <li>7 国民保護についての国や自治体の取り組みについて理解している。</li> <li>8 安全保障に関し、選択したテーマについて自己の意見を述べるができる。</li> </ol>
ゼミの概要	<p>日本の安全保障について 国際環境と国内政治がどのようにかかわってきたのかにも着目しつつ学んでいきます。</p> <p>世界の各国は独自の安全保障政策や、安全保障組織により、自国の主権と独立を確保しています。現在の国際情勢、とりわけ軍事情勢は厳しい状況にあります。そのような中で、各国はそれぞれの防衛努力により、周辺諸国と連携するとともに、国連の集団的安全保障体制の下で平和と安全を維持しているところです。</p> <p>前半は現在の平和安全保障体制の下で日本がどのような安全保障政策をとっているのか、国連の集団安全保障体制、日米及び関係各国との安全保障体制についても解説していきます。後半は、各自が興味を持ったテーマについて報告を行い、安全保障についてさらに理解を深めていきます。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の安全保障政策に関するニュースに関心を持つこと。</li> <li>・国際的な軍事情勢、国際テロ、日本周辺の情勢に関心を持ち、国連や当事国の対処状況に関心を持つこと。</li> </ul> <p>(予習 2時間程度、復習 2時間程度)</p>
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 次の①～③の条件をすべて満たすこと。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①統治機構、行政学Ⅰ・Ⅱいずれかの単位を修得済みであること。</li> <li>②1回目又は2回目のゼミナールに出席し、安全保障に関する関心事項についてペーパーを提出すること（フォーマットは出席時に配布する。）。</li> <li>③履修登録にあたっては、担当教員と面接の上、履修許可を得ること。</li> </ol> </li> <li>2 国際関係論と同時履修であることが望ましい。</li> <li>3 ゼミナール内での討議に参加すること。発言できない学生の参加は認めない。</li> </ol>
テキスト	授業中に指示する。
参考文献・資料	<p>防衛白書（令和元年版）、外交青書（令和元年版）、田村重信等『日本の防衛法制』（内外出版）、同『日本の防衛政策』（内外出版）、森本敏『日本の安全保障』（実務教育出版）、武田康裕『安全保障のポイントがよくわかる本』（亜紀書房）、西原正『わかる平和安全法制』（朝日新聞社）、武田康裕ほか『新訂第5版 安全保障学入門』（亜紀書房）、渡邊隆『平和のための安全保障論 軍事力の役割と限界を知る』（かもがわ出版）、田村重信・さとう正久編著『教科書 日本の防衛政策』芙蓉書房出版、松本利秋『逆さ地図で解き明かす新世界情勢』（ウエッジ）</p>

成績評価の方法	授業への参加状況（報告・質疑応答など）50%、レポート50% ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日14:40～16:10・水曜日14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	国際関係や国家としての安全保障のあり方、国民保護等に興味のある学生の積極的な参加を期待しています。 学生の関心が定まり、レポート作成と研究発表に着手することができるようにするため、前期はこれまで体系的に学んだことがない学生もいることを前提に授業を進めます。 後期では、実際に安全保障に携わる防衛省及び国民保護計画策定の中心となる自治体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して特別講義をして頂き、安全保障について、さらに理解を深めてもらう予定です。

授業計画			
第1回	ガイダンス 安全保障の意義	第17回	学生による発表① 討議
第2回	国家の成立要件、領域	第18回	学生による発表② 討議
第3回	領土・領海・領空	第19回	学生による発表③ 討議
第4回	防衛政策の基本①	第20回	トピック・まとめ
第5回	防衛政策の基本②	第21回	学生による発表④ 討議
第6回	防衛政策の方針	第22回	学生による発表⑤ 討議
第7回	政策決定機関	第23回	学生による発表⑥ 討議
第8回	治安維持と防衛の差異	第24回	トピック・まとめ
第9回	緊急事態対処時の行動及び権限	第25回	学生による発表⑦ 討議
第10回	武力攻撃事態における法体系	第26回	学生による発表⑧ 討議
第11回	国民保護の在り方	第27回	学生による発表⑨ 討議
第12回	国際連合の主要機関及び役割	第28回	トピック・まとめ
第13回	国際司法裁判所	第29回	特別講義①（ゲストスピーカー）
第14回	国際平和協力活動の概要	第30回	特別講義②（ゲストスピーカー）
第15回	地域的安全保障体制の概要	第31回	全体のまとめ
第16回	前期のまとめ		

	ゼミナール名	ゼミナール I (対人心理学)		
	ゼミ担当者名	瀧澤 純 (たきざわ じゅん)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	対人心理学に関する方法を学ぶ。
ゼミの到達目標	2年生のゼミでは対人行動に関する検証を行うための考え方や方法論を理解できるようになることを目標とする。社会・人間・動物について温かく思いやる視点と、冷静に分析する視点を両立させてほしい。
ゼミの概要	<p>心理学の視点や方法を用いて検証し、発信するゼミである。ゼミでは「簡単に調べただけでは答えが出せない問題」に取り組む。ゼミでの活動により、所属する学科の学びにも、試験勉強にも、就職活動にも、公務員試験にも、その後の人生にも活かすことを目指す。</p> <p>前期は対人行動に関する研究(実験や調査)の実施、データの分析、1200字以上のレポートの作成を行う。後期は、レポートの内容を発表し、次年度の3年生研究に向けた論文紹介を行う。</p>
授業時間外の学習	<p>ゼミの時間外で、グループでの話し合い、資料の検索、実験の考案・調査用紙の作成、実験や調査への協力の呼び掛け、データ入力、データ分析、レポートや論文作成、発表用スライドの作成などに取り組む必要がある(週2.0時間程度)。</p> <p>さらに、毎週のゼミ前には指定された資料を読み(週1.0時間程度)、ゼミ後には復習を行うことを求める(週1.0時間程度)。</p>
履修条件	<p>以下の①と②の両方を満たさなければ、このゼミを履修できない。</p> <p>①ゼミを履修する時点で「心と行動Ⅰ、心と行動Ⅱ、統計学、人間行動学、犯罪心理学、社会調査の仕方、学生生活入門Ⅱ」の7科目から2科目以上の単位が取得済みであること</p> <p>②ゼミ第3回開始までに教員との面談に合格し、受講の許可を得ること</p>
テキスト	使用しない。学生自身が、取り組むテーマに応じて資料を探す必要がある。
参考文献・資料	高野陽太郎・岡隆(編)『心理学研究法 補訂版』(有斐閣, 2017年)
成績評価の方法	行事への参加と取り組み姿勢20%、提出物と発表60%、定期試験20%の割合で評価する。出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日の3時限(13:00から14:30)、金曜日の2時限(10:40から12:10)とする。
成績評価基準	100~90点を秀、89~80点を優、79~70点を良、69~60点を可、59点以下を不可とする。
学生へのメッセージ	積極的な参加が求められるゼミです。学年合同の懇親会、球技大会、大学祭、ゼミ旅行、各学年の発表会など、学年やゼミを越えて人と関わる中で、人を想うことができる人になってください。心理学による検証を行い、検証結果を発信する中で、人への思慮深さを身につけてください。

授業計画			
第1回	ガイダンス：教員の研究紹介①	第17回	中間報告会②：レポートを用いた発表
第2回	心理学の概要：よい研究とは、教員の研究紹介②	第18回	発表の準備①：画面で見せる資料
第3回	研究の基本①：研究の体験①、2年生研究(2年研)の内容説明、連絡グループ作成	第19回	発表の準備②：紙で配る資料
第4回	研究の基本②：研究の体験②、チーム作り	第20回	発表の準備③：リハーサル
第5回	2年研の準備①：リサーチクエスチョンの設定	第21回	2年生研究発表会
第6回	2年研の準備②：研究計画立案、仮説の設定	第22回	3年生研究(3年研)に向けて①：論文の探し方
第7回	2年研の準備③：道具の準備	第23回	3年研に向けて②：雑誌「心理学研究」について、発表順の決定
第8回	中間報告会①：研究実施前の最終確認	第24回	論文紹介①
第9回	2年研の実施①：協力依頼と同意	第25回	論文紹介②
第10回	2年研の実施②：データ収集、データ入力	第26回	論文紹介③
第11回	データ分析①：平均値、標準偏差	第27回	論文紹介④
第12回	データ分析②：群分け、図表の作成	第28回	論文紹介⑤
第13回	レポートの作成①：問題と目的、方法	第29回	3年研に向けて③：リサーチクエスチョンの設定
第14回	レポートの作成②：結果、考察	第30回	3年研に向けて④：仮説の設定、統計的手法の検討
第15回	レポートの作成③：先行研究からの進歩	第31回	卒業研究発表会への参加
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (情報システム管理論)		
	ゼミ担当者名	瀧森 威		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	最新の情報・IT技術を通して、その分野の基本的な資質を磨きます。
ゼミの到達目標	このゼミの単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 社会人としての自覚・良識・思考を身に付ける。 2. グループによる調査・研究・発表を通して、チームワークやコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が身に付ける。 3. 情報リテラシー能力が身に付ける。
ゼミの概要	IT関連の著名な人間をテーマに、コンピュータの歴史と当時の開発現場での人間模様や背景を学びます。IT関連資格の取得に向けた知識と実技の習得と実践を行います。学生が社会人になるための基本的な資質を磨きます。
授業時間外の学習	情報やITの技術動向に対して絶えず関心を持って調査研究する。 多くのソフトウェアを使いこなす。
履修条件	コンピュータ入門やコンピュータ利用技術 I を修得している学生が望ましい。 適宜資料を配布しますが、欠席した学生は配布資料の有無を確認し、研究室まで取りに来てください。
テキスト	情報やIT関連に関するプリント、資格取得のためのプリント
参考文献・資料	講義中に適宜紹介します。ITパスポート関連、日商PC検定関連、MS検定関連資料。
成績評価の方法	講義中に実施する実践的課題 30% (知識問題・実技問題・レポート)、グループ調査研究 30%、試験 40% により判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・課題は必ず提出することが前提で、授業内又は掲示板で指示します。
オフィスアワー	毎週 金曜日 10:40~12:10 これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69~60点)、不可 (59点以下)
学生へのメッセージ	パソコンを今まで操作したことがない学生にも対応できるベルから学習しますが、油断せずに、遅刻は厳禁です。大きな仕事をやりとげた人達からの教え等、学生たちがこれからの進路や人生をどのように歩んでいくべきか、今一度学生の皆さんと一緒に考える。

授業計画		
第1回	ゼミナールの概論	第17回 調査研究のための概要 (グループ分けとテーマ説明) I T活用能力の習得⑥ (模擬試験6)
第2回	情報やI T関連の資格取得について	第18回 I T活用能力の習得⑦ (模擬試験7) 最新情報及びI T技術の調査研究班決め 秋田県の諸問題班決め
第3回	ビルゲイツとマイクロソフトについて (ビデオ視聴)	第19回 I T活用能力の習得⑧ (模擬試験8) (情報・I T技術班、秋田県の諸問題班調査研究)
第4回	ビルゲイツとマイクロソフトについて (ビルゲイツの歩んだ道の解説)	第20回 I T活用能力の習得⑨ (模擬試験9) (情報・I T技術班、秋田県の諸問題班調査研究)
第5回	スティーブジョブズとアップルについて (ビデオ視聴、 スティーブジョブズの歩んだ道の解説)	第21回 I T活用能力の習得⑩ (模擬試験10) (情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 中間発表準備)
第6回	コンピュータ業界の時代背景について	第22回 情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 中間発表準備
第7回	パソコン黎明期の時代背景と人間模様	第23回 ゼミ内各研究中間発表会
第8回	情報処理技術の基礎知識の習得① (日商P C検定3試験共通の知識科目について)	第24回 I T活用能力の習得⑪ (模擬試験11) (情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 改善・改良)
第9回	情報処理技術の基礎知識の習得② (日商P C検定文書作成試験及びデータ活用試験 の知識科目について)	第25回 I T活用能力の習得⑫ (模擬試験12) (情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 改善・改良)
第10回	情報処理技術の基礎知識の習得③ (日商P C検定スライド作成試験の 知識科目について)	第26回 情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 本番発表準備
第11回	I T活用能力の習得① (文書作成実技試験対策 模擬試験1と解説)	第27回 ゼミ内各研究発表会
第12回	I T活用能力の習得② (文書作成実技試験対策 模擬試験2と解説)	第28回 情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第13回	I T活用能力の習得③ (データ活用実技試験対策 模擬試験3と解説)	第29回 情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第14回	I T活用能力の習得④ (データ活用実技試験対策 模擬試験4と解説)	第30回 情報・I T技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第15回	I T活用能力の習得⑤ (データ活用実技試験対策 模擬試験5と解説)	第31回 1年間の総括
第16回	前期定期試験	第32回 後期定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅠ（行政学・政治学）		
	ゼミ担当者名	寺迫 剛		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	<p>そもそも行政や政治とは「社会を共にし、運命を分かち合っている人々が互いに力を合わせて共通のニーズを充足し、人間としてのよりよき存在のために必要な諸条件を整えていくことを目指す集合的な営為」（片岡寛光(1990)『国民と行政』早稲田大学出版部）であることを、本ゼミナールを通じて認識し、行政(学)・政治(学)についての理解を深めること。ゼミナールⅠ,Ⅱ,Ⅲを通じて、段階的にゼミ論文を執筆、完成させましょう。</p>
ゼミの到達目標	<p>①行政(学)・政治(学)についての一般的知識を習得し、 ②ゼミ参加者各自が、各々のテーマを探求し、 ③他国の事例あるいは同国の他のテーマとの比較の視点を獲得することにより、各自がゼミ論文のテーマを見つけること。</p>
ゼミの概要	<p>▶ テキストあるいはレジュメを輪読する形式とします。始めのうちは説明の比重が多いと思いますが、段階的にゼミ参加者との討議の割合を増やしていき、討議メインのゼミにしていきましょう。 ▶ 行政学および政治学の基礎知識を効率よく習得するため、いわゆる公務員試験対策教材を活用する場合があります。</p>
授業時間外の学習	<p>▶ 文部科学省の大学設置基準第21条に基づき、事前学習（1.5時間）および事後学習（1.5時間）とします。 ▶ 世間、社会、世界に関心をもって過ごすことで、事前・事後学習時間に充当すること。</p>
履修条件	<p>▶ 第1回あるいは第2回（お試し）ゼミに出席すること。出席できない場合には、必ず、履修前に国家試験等センターへ「顔つなぎ」に来てください。 ▶ 「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」、「都市政策論」のシラバスを読んで、興味関心が沸くこと。</p>
テキスト	<p>▶ ゼミ参加メンバーと調整して決定</p>
参考文献・資料	<p>『〇〇行政学（タイトル未定）』西岡晋・廣川嘉裕編（文眞堂、2021 予定近刊） 『テキストブック地方自治の論点』宇野二郎・長野基・山崎幹根（ミネルヴァ書房、2021 予定近刊） 『政府間関係の多国間比較』秋月謙吾・城戸英樹編（慈学社、2021） 『行政学〔新版〕』真淵勝（有斐閣、2020） 『行政学の基礎』風間規男編著、岡本三彦、中沼丈晃、上崎哉（一藝社、2019） 『行政学講義』金井利之（ちくま新書、2018） 『行政学』原田久（法律文化社、2016） 『行政学〔第2版〕』外山公美編（弘文堂、2016） 『はじめての行政学』伊藤正次、出雲明子、手塚洋輔（有斐閣スタジオ、2016） 『行政学』曾我謙悟（有斐閣アルマ、2013） 『雇用連帯社会』井手英策編（岩波書店、2011） 『コレク行政学』縣公一郎・藤井浩司編（成文堂、2007） 『岩波講座 都市の再生を考える（第1巻）都市とは何か』植田和弘・西村幸夫・神野直彦・間宮陽介編（岩波書店、2005） 『行政学〔新版〕』西尾勝（有斐閣、2001） 『国民と行政』片岡寛光（早稲田大学出版部、1990）</p>
成績評価の方法	<p>▶ ゼミでの積極的参加・貢献の度合い（60%） ▶ レポートあるいは試験（40%）</p>

	※ノースアジア大学の規定により、出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日 4 限および木曜日 1 限
成績評価基準	秀 (100～90 点)、優 (89～80 点)、良 (79～70 点)、可 (69～60 点)、不可 (59 点以下)
学生へのメッセージ	公務員を目指す人も、迷っている人も、むしろイヤな人も、誰もが楽しいゼミにしましょう、なぜなら、行政 (学) や政治 (学) が対象とするのは、私達みんなであり、一人一人がかけがえなく結びついていること、だからこそ共に暮らす社会もかけがえのないことを学び、ゼミ参加者から、このような社会を支える心意気のある若者が現れることを望みます。

授業計画			
第 1 回	オリエンテーション	第 17 回	インターミッション
第 2 回	行政学・政治学の基礎知識① 政官関係論①	第 18 回	テーマ候補のプレゼンテーション①
第 3 回	行政学・政治学の基礎知識② 政官関係論②	第 19 回	テーマ候補のプレゼンテーション②
第 4 回	行政学・政治学の基礎知識③ 政官関係論③	第 20 回	テーマ候補のプレゼンテーション③
第 5 回	行政学・政治学の基礎知識④ 政党・議会政治①	第 21 回	テーマ候補のプレゼンテーション④
第 6 回	行政学・政治学の基礎知識⑤ 政党・議会政治②	第 22 回	プレゼンテーションを経たテーマの再検討①
第 7 回	行政学・政治学の基礎知識⑥ 政党・議会政治③	第 23 回	プレゼンテーションを経たテーマの再検討②
第 8 回	行政学・政治学の基礎知識⑦ 官僚制論・公務員制度論①	第 24 回	プレゼンテーションを経たテーマの再検討③
第 9 回	行政学・政治学の基礎知識⑧ 官僚制論・公務員制度論②	第 25 回	プレゼンテーションを経たテーマの再検討④
第 10 回	行政学・政治学の基礎知識⑨ 官僚制論・公務員制度論③	第 26 回	ゼミ論テーマのプレゼンテーションと討議①
第 11 回	ゼミ参加者が取り組むテーマの検討①	第 27 回	ゼミ論テーマのプレゼンテーションと討議②
第 12 回	ゼミ参加者が取り組むテーマの検討②	第 28 回	ゼミ論テーマのプレゼンテーションと討議③
第 13 回	ゼミ参加者が取り組むテーマの検討③	第 29 回	ゼミ論テーマのプレゼンテーションと討議④
第 14 回	ゼミ参加者が取り組むテーマの検討④	第 30 回	ゼミナール I のまとめとゼミナール II への展望①
第 15 回	ゼミ参加者が取り組むテーマの検討⑤	第 31 回	ゼミナール I のまとめとゼミナール II への展望②
第 16 回	定期試験	第 32 回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (政治学)		
	ゼミ担当者名	中村 逸春		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	社会とは何か？ 社会と個人との関係はどうあるべきか？ 私のゼミナールでは、こうした問いについて、政治学や行政学の文献を読み議論することを通じて、一緒に考えていければと思っています。
ゼミの到達目標	政治学の文献を読解する力と、他のゼミ生と議論する力を習得すること。 社会科学的な思考を身につけること。ゼミ論文を執筆するための能力を涵養すること。
ゼミの概要	<p>①前期は、政治学について幅広く学ぶため、水島治郎『ポピュリズムとは何か：民主主義の敵か、改革の希望か』と、湯浅誠『反貧困：「すべり台社会」からの脱出』（あるいは、田中拓道『福祉政治史』）をテキストとする予定です（参加者の希望も聞く予定）。毎回、指定された箇所を事前に読んできて、当日は全員で議論するという形でゼミを進めます。なお、テキストは専門書ではなく、一般読者向けの新書ですので、比較的読みやすいと思います。</p> <p>②後期には、ゼミ論文の作成と、政治学・行政学分野の文献の講読を行う予定です。ただし、もし参加者から要望があれば、山本昭宏『戦後民主主義：現代日本を創った思想と文化』を数回読むことも考えます。後期の文献は配布します。</p>
授業時間外の学習	テキストを読んで分からないことがあれば、事前に図書館やウェブ情報を通じて調べておくこと（2.0時間程度）。新聞などに日々目を通しておくこと（2.0時間程度）。
履修条件	特にありません。ただし、ガイダンスに出席できない（できなかった）場合は、第3回目の授業日の前までに、7階の研究室に一度お越しください。
テキスト	水島治郎『ポピュリズムとは何か：民主主義の敵か、改革の希望か』中公新書（820円）。 湯浅誠『反貧困：「すべり台社会」からの脱出』岩波新書（740円）。
参考文献・資料	山本昭宏『戦後民主主義：現代日本を創った思想と文化』中公新書（920円）。 田中拓道『福祉政治史：格差に抗するデモクラシー』勁草書房、2017年。
成績評価の方法	発言や報告などの取り組み姿勢（60%）、レポートまたは試験（40%）によって評価する。 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜・金曜 14:00～15:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>(1) ゼミの内容に関心を持たれた方は、気軽に7階の研究室にお越しください。</p> <p>(2) 政治に強い関心がなくても、特に問題はありません。政治とは何か、学問とは何なのか、一緒にゼミで考えましょう！</p> <p>(3) 大人数にはならないと思いますので、5～6名ほどの少人数が好みの人にはお勧めです。</p> <p>(4) 公務員試験（警察消防除く行政職）の勉強についてある程度は助言ができると思います。</p> <p>(5) 発表会は法律学科のものに参加しますが、国際観光学科、経済学部部の学生も歓迎します。</p>

授業計画			
第1回	第1回ガイダンス	第17回	後期のゼミ活動についての説明、個別面談
第2回	第2回ガイダンス	第18回	抑圧の論理② ーヨーロッパ極右政党の変貌 (『ポピュリズムとは何か』)
第3回	文献検索の方法、ゼミ内の役割分担	第19回	リベラルゆえの「反イスラム」 ー環境・福祉先進国の葛藤 (『ポピュリズムとは何か』)
第4回	すべり台社会・日本① ー三層のセーフティネット (『反貧困』)	第20回	国民投票のパラドクス ースイスは「理想の国」か (『ポピュリズムとは何か』)
第5回	すべり台社会・日本② ー皺寄せを受ける人々 (『反貧困』)	第21回	グローバル化するポピュリズム① (『ポピュリズムとは何か』)
第6回	貧困は自己責任なのか① ー五重の排除、自己責任論批判 (『反貧困』)	第22回	グローバル化するポピュリズム② (『ポピュリズムとは何か』)
第7回	貧困は自己責任なのか② ー見えない“溜め”を見る、貧困問題をスタートラインに (『反貧困』)	第23回	ゼミ論文についての説明、個別面談
第8回	「すべり台社会」に歯止めを ー「市民活動」「社会領域」の復権を目指す、起点としての〈もやい〉 (『反貧困』)	第24回	政治学文献講読
第9回	つながり始めた「反貧困」 ー「貧困ビジネス」に抗して、ナショナル・ミニマムはどこに？ (『反貧困』)	第25回	政治学文献講読
第10回	強い社会を目指して ー反貧困のネットワークを (『反貧困』)	第26回	ゼミ論文作成状況のフォロー、個別指導
第11回	映画鑑賞 (前半)、個別面談	第27回	政治学文献講読
第12回	ポピュリズムとは何か (『ポピュリズムとは何か』)	第28回	政治学文献講読
第13回	解放の論理 ー南北アメリカにおける誕生と発展 (『ポピュリズムとは何か』)	第29回	映画鑑賞
第14回	抑圧の論理① ーヨーロッパ極右政党の変貌 (『ポピュリズムとは何か』)	第30回	ゼミ論文の発表
第15回	映画鑑賞 (後半)、個別面談	第31回	後期の総括、ゼミ論文の体裁、個別面談
第16回	レポート	第32回	レポート (または定期試験)

	ゼミナール名	ゼミナール I (人間科学)		
	ゼミ担当者名	西巻 丈児 (にしまき じょうじ)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	「人間」って何? -経済活動をする人間の「知」とは-
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間は社会生活の中で、何をどのように考えればよいのかという思考の諸問題を、自分自身の身近な問題として考える習慣を身につけることができる。</li> <li>・人間のあり方をみずから考えるという、思考法を身につけることができる。</li> </ul>
ゼミの概要	<p>「自分ってなんだろう?」、「よく生きるためにはどうすればよいのだろうか?」…、結局のところ「人間とはなんだろう?」。あなたもこれに類似する事柄を、少なからず考えたことがあるのではないだろうか。実は、このような問いは古代から考えられており、現在までさまざまな答えが提示されてきた。人間の本质を労働と捉え、経済の仕組みが人間のものの見方や考え方を決めていたとみなした例もあった。人間には、「真・善・美」という3つのキーワードを用いて、「何を知ることができるのか」、「何をなすべきなのか」、そして「どう感ずるのか」を問うてきた歴史がある。</p> <p>このゼミナールIでは、その中でも、「知ること」を中心にして、古代から考えられてきた「人間のあり方」についての思索の道をたどり、「人間の存在」の諸問題を一緒に考えていく。</p>
授業時間外の学習	<p>予習：(1.5時間程度) 授業の内容は連関しているので、毎回、配布する資料を復習しておき、前の回までの内容を自分なりに考えて授業に臨むようにすること。講読の授業の際には、該当の頁をあらかじめ読んでおくこと。また、研究発表に向けては、かなりの準備時間が必要となる。</p> <p>復習：(1.5時間程度) 毎回配布する資料に参考文献を記載するので、復習するにはそれも参考にすること。</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回目か第2回目のゼミナールに必ず出席して、「人間についての観方」に関する自身の問題意識を書くことが第一条件である。そして、履修登録に先立ち、本ゼミナールに参加希望する旨を本教員に直接表明し、面談を受けることが、第二条件である。</li> <li>・講読の授業の際には、該当の頁をあらかじめ読んでおくことが全員に義務づけられる。</li> <li>・本ゼミナールに属する学生は全員、研究発表大会などに出場しなければならない。</li> </ul>
テキスト	特に指定はしない。授業中に毎回配布するプリントが教科書の代わりとなる。また、パワーポイント、映像資料や文字資料も適宜使用する。
参考文献・資料	プラトン『ソクラテスの弁明』岩波文庫、デカルト『方法序説』岩波文庫
成績評価の方法	3分の2以上の出席を前提に、授業時に毎回提出してもらうリアクションペーパーによる理解度(20%)、発表時の内容(30%)と、定期試験(50%)を総合して、最終的な評価を下す。出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができない。また、欠席、遅刻、私語、居眠り、無断退出等については減点の対象とする。
オフィスアワー	月曜日 10:40~12:10、火曜日 10:40~12:10 事前連絡があれば、上記時間の他にも可能性あり。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)

学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	日々の暮らしの中に、自分自身の生き方を考えるさまざまなヒントが隠れている。解決することはできないかもしれないが、考え続けるということはとても大切なことである。一緒に人間の問題について考えていこう。
----------------------	--

授業計画			
第1回	ガイダンス： ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方	第17回	ガイダンス：前期の復習と後期の授業展開
第2回	オリエンテーション： マルクスが考えた人間像の一例	第18回	キリスト教の誕生と展開：信仰と知の分離
第3回	人間とは？：＜私＞は何を知ることができるのか	第19回	近世の自然観：科学革命の誕生
第4回	客観とは？：ありのままの姿を考える	第20回	近世の合理的精神：デカルトのコギト
第5回	無知の知とは？：ソクラテスのフィロソフィア	第21回	レポート完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会①
第6回	存在の探求とは？(1)：プラトンのイデア論	第22回	レポート完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会②
第7回	存在の探求とは？(2)：アリストテレスの世界観	第23回	人間のあり方について考える：近世編 デカルトの著作にみる「私」の発見(1)
第8回	人間のあり方について考える：古代編 プラトンの著作にみる人間と知(1)	第24回	人間のあり方について考える：近世編 デカルトの著作にみる「私」の発見(2)
第9回	人間のあり方について考える：古代編 プラトンの著作にみる人間と知(2)	第25回	人間のあり方について考える：近世編 デカルトの著作にみる「私」の発見(3)
第10回	人間のあり方について考える：古代編 プラトンの著作にみる人間と知(3)	第26回	人間のあり方について考える：近世編 デカルトの著作にみる「私」の発見(4)
第11回	人間のあり方について考える：古代編 プラトンの著作にみる人間と知(4)	第27回	理性への反省(1)：カントの人間観
第12回	人間のあり方について考える：古代編 プラトンの著作にみる人間と知(5)	第28回	理性への反省(2)：カントの世界観
第13回	人間のあり方と知に関するディスカッション	第29回	レポート完成計画Ⅲ 研究発表会①
第14回	レポート完成計画Ⅰ：(レポート執筆の準備) 文献の探し方、文献注記の書き方など	第30回	レポート完成計画Ⅲ 研究発表会②
第15回	前期のゼミのまとめと夏季休暇中の課題について	第31回	本ゼミナールの総括
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (表現文化)		
	ゼミ担当者名	橋元 志保 (はしもと しほ)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	大学生としてふさわしい教養を身につけるために、日本やイギリスを中心に歴史・文化・文学について学び、文化の継承をはじめとする諸問題を考察し、論理的に表現できるようになる。
ゼミの到達目標	このゼミナールの単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 世界遺産を中心に日本や海外の文化に触れ、その歴史や特色を説明することができる。 2. 日本やイギリスの文学に触れ、内容を味わい、文化的背景も含めて理解することができる。 3. 文化や文学をテーマにした論理的な文章を書き、発表することができる。
ゼミの概要	表現文化ゼミナールでは、文学や芸術、世界遺産等を中心に国内外の文化に触れ、大学生にふさわしい教養を深めることを目的とします。また、日本やイギリスの文学作品を中心に講読を行い、評論や論文を理解できるような読解力・思考力を涵養します。そして、文化や文学をテーマに論述・プレゼンテーションが行えるような表現力も身につけていきます。なお、将来の進路や採用試験の準備に関するサポートも持続的に行っていきます。
授業時間外の学習	1. ゼミで取り上げる評論や小説を、指定された頁まで必ず読んできてください。また、難解な漢字や語句の意味は必ず調べておきましょう (1時間程度)。 2. 前期・後期ともプレゼンテーションの練習を行いますので、発表日までに、指定されたテーマによるパワーポイントの作成、及び発表準備を行うこと (1~2時間程度)。 3. ゼミで紹介した文学作品やエッセイ、評論等を読むことを推奨します (1~2時間程度)。
履修条件	① 「文章の読み方」「小論文の書き方」「日本の文学」「福祉と文学」のいずれかの科目を履修し、単位を修得しているか、今年度、上記科目または「旅と文学」「世界の中の日本文学」のいずれかを履修する意欲があること。 ② もしくは、前期の履修登録期間中に面談し、真面目にゼミに参加する意思が確認できた人。 ③ 大学行事等で、他のゼミ生と一緒に行動することも多いので、皆と仲良くできること。 ④ 担当教員から連絡があった場合は必ず応答し、学則は遵守すること。
テキスト	授業時に資料を配布します。尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 2014年) 他
参考文献・資料	阿部秋生・秋山 虔ほか校注・訳 新編日本古典文学全集 20『源氏物語』(小学館)・新編日本古典文学大系 38『今昔物語集』(小学館) 他
成績評価の方法	【主体的な学びの姿勢 (25%)、課題の提出 (25%)、定期試験 (50%)】の総合評価とします。 1. 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。 2. 授業中の迷惑行為は厳禁です。そのような行為を繰り返し、注意しても改めない場合は、単位を認定できない場合があります。
オフィスアワー	火曜日 (14:40~16:10)・木曜日 (14:30~16:10) ※これ以外の時間は、事前に予約してください。
成績評価基準	秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69~60点)、不可 (59点以下)
学生へのメッセージ	ゼミナールは、講義のような一方的な形式ではなく、教員や他のゼミ生達とコミュニケーションを取りながら、論理的な思考と表現方法を学ぶ場です。また、本ゼミでは高杉祭の模擬店や食事会、プチ旅行などを皆で計画して実施したり、将来の進路に向けて真剣に話し合うこともあります。通常の授業と違って、一緒に勉強するだけでなく、将来の夢に向かって努力していくための仲間づくりの場でもあるのです。ぜひ良き仲間たちと共に学び、成長していきましょう。

授業計画			
第1回	キャリア・デザインについて① 将来の進路選択と自己分析	第17回	キャリア・デザインについて③ 業界・企業・職種研究と自らの強みについて
第2回	世界遺産とは何か 日本の文化・自然遺産について	第18回	イギリスの歴史と文化 イギリス・ルネッサンスの時代
第3回	世界遺産と日本の文化① 外国人にも愛される古都京都の魅力	第19回	イギリスの歴史と文学 シェイクスピアの生涯と文学
第4回	世界遺産と日本の文化② 古都京都の文化財と国風文化	第20回	シェイクスピア 『ロミオとジュリエット』を読む①物語の背景
第5回	世界遺産と日本の文学① 上賀茂・下鴨神社と日本の文学	第21回	シェイクスピア 『ロミオとジュリエット』を読む②登場人物たち
第6回	世界遺産と日本の文学② 古都京都と『源氏物語』の魅力	第22回	シェイクスピア 『ロミオとジュリエット』を読む③悲喜劇の構造
第7回	世界遺産と日本の文学③ 古都京都と『源氏物語』の世界	第23回	シェイクスピア 『ロミオとジュリエット』に見る映像文化
第8回	世界遺産と日本の文学④ 近江・京都と『古今和歌集』百人一首カルタほか	第24回	シェイクスピアの文学に関する論文の講読
第9回	日本の文化の歴史を学ぼう① 鬼とは何かー『日本書紀』『風土記』から	第25回	グループ・ディスカッション① 次世代に残したい文化について
第10回	日本の文化の歴史を学ぼう② 『鬼滅の刃』の世界観	第26回	論理的な文章を書けるようになろう① 論述の基本と上達方法
第11回	日本の文化の歴史を学ぼう③ 『鬼滅の刃』の鬼たち	第27回	論理的な文章を書けるようになろう② 論文作法・表現等について
第12回	日本の文化の歴史を学ぼう④ 『鬼滅の刃』の鬼狩りの系譜	第28回	グループ・ディスカッション② 時事問題について
第13回	プレゼンテーションの練習① 発表・質疑応答・講評ほか	第29回	プレゼンテーションの練習③ 発表・質疑応答・講評ほか
第14回	プレゼンテーションの練習② 発表・質疑応答・講評・論文紹介ほか	第30回	プレゼンテーションの練習④ 発表・質疑応答・講評・論文紹介ほか
第15回	キャリア・デザインについて② 資格取得と採用試験の準備について	第31回	キャリア・デザインについて④ 進路選択と5年後・10年後の自分
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (文化研究)		
	ゼミ担当者名	花田 富二夫		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	教養ゼミであり、自己表現を重視します。専門の領域を問わず、文章の読み書きは不可欠な技量です。当ゼミでは主に小論文の訓練を中心に授業を行います。将来、公務員試験を目指す者、またはそうでなくても論文試験などに挑みたい者を対象とします。
ゼミの到達目標	課題執筆のために必要な資料を収集し、自分なりの考えをまとめて小論文として執筆し、もしくはプレゼンテーションなどによって発表できることを目標とします。
ゼミの概要	前期は自ら選択した課題に関して、図書館などで文献資料を収集しながら小論文を執筆する練習を行います。最終的には、それらをパワーポイントなどで発表する練習も行う予定です。後期は、グループによる論文執筆とともに、発表を行っていきます。
授業時間外の学習	広く社会の出来事を感じ、それらに関する文献の探究や、各メディアへの関心を持つ態度を涵養する必要があります。
履修条件	最初の時間に面談を行います。そこでは、大学の整容面を守っているか、履修態度は良好か、ゼミで指示する欠課・遅刻の連絡を守れるか、日々の生活態度は良好か、などについて尋ねます。また、授業中はスマホの使用は禁止とします。以上を守れる学生が受講することを求めます。
テキスト	特になし
参考文献・資料	授業時に指示することがあります。
成績評価の方法	ゼミの授業形式を理解し、真剣に取り組んだかどうかを評価します。 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	授業後
成績評価基準	毎回の授業参加への意欲と態度を基準とします。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	履修条件に記したように、授業では誠実な態度と意欲を望みます。なにをおいてもまず、誠実な学生であることが卒業や就職のすべてを決定するからです。したがって上記に記したものは最低条件です。学生諸君は、日常の生活の中で、常に社会の動向に気を配り、自らを高める意欲をもって欲しいと思います。

授業計画			
第1回	講義内容の解説ならびに個人面談を実施する 整容面、学習面、履修状況、生活態度について、 また、ゼミに臨む態度など	第17回	パワーポイントによる発表会
第2回	同上	第18回	グループ設定と課題設定
第3回	自己のテーマと図書の選択、教員との相談	第19回	グループ調査
第4回	選択図書の解説（1回目） 発表の準備	第20回	グループ調査
第5回	選択図書の解説、発表の準備（レジュメ作成）	第21回	グループ調査
第6回	単独発表会（ゼミの人数による）、質疑応答	第22回	グループ調査
第7回	単独発表会、質疑応答	第23回	中間発表会
第8回	選択図書の解説（2回目）、発表準備	第24回	中間発表会
第9回	選択図書の解説、発表準備（レジュメ作成）	第25回	中間発表会
第10回	単独発表会、質疑応答	第26回	中間発表会
第11回	単独発表会、質疑応答	第27回	最終課題設定と調査
第12回	自由課題設定、図書選択	第28回	最終課題設定と調査
第13回	課題分析	第29回	発表資料作成
第14回	パワーポイント作成	第30回	発表資料作成
第15回	パワーポイント作成	第31回	全体発表会
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (日本経済のマクロ分析)		
	ゼミ担当者名	深澤泰郎		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	マクロ経済学の視点から、まず日本経済の全体像を理解する。その大前提となる日本の人口問題について確認するとともに、日本の製造業の劣化についてもその実態を把握する。
ゼミの到達目標	日本経済の問題点を探るために、まずその全体像と実態を把握します。それによって、日本経済の問題点が自分なりに理解できます。また、ビジネスパーソンにとっては必ず必要となる毎日の経済ニュースの理解度が飛躍的に高まります。
ゼミの概要	2年次ということで、基礎知識の確認を中心とするため、輪読と意見発表の展開で進めます。基礎知識を習得するとともに、自ら考える姿勢を自分のものとして下さい。この1年で、自分の研究テーマを探して下さい。受講者の理解度、進行状況等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。
授業時間外の学習	テキストの内容について、最新の経済データを事前に準備すること。 日本経済新聞に目を通すこと。
履修条件	マクロ経済学Ⅰ、生活経済学の単位を取得済みかまたは同時履修すること。以降に、マクロ経済学Ⅱも履修すること。
テキスト	「日本経済入門」野口悠紀雄 講談社現代新書、 「経験なき経済危機」野口悠紀雄 ダイヤモンド社
参考文献・資料	「平成はなぜ失敗したのか」野口悠紀雄 幻冬舎 日本経済と財政危機の本質シリーズ3R「日本が抱える大きな重荷！激減する人口と消滅する地方都市」深澤泰郎、 同シリーズ10「劣化する日本の製造業」深澤泰郎、 その他についてはゼミの中でお話しします。
成績評価の方法	輪読と意見発表(50%)、テストまたはまとめのレポート(50%) 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	未定
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	日本の将来はマクロ経済的には暗い展望しか描けません。その解決策を探るには、まず日本経済の実態を把握して、将来予想を行う必要があります。そのうえで自分で考える姿勢を習得できれば、就職の際にも、さらに就職後の人生に、「有効なツール」となります。個人として幸福になる道を探します。

授業計画			
第1回	ガイダンス 教科書紹介 1年間の目標設定	第17回	膨張を続ける医療・介護費
第2回	不振が続く国内需要	第18回	公的年金が人口高齢化で維持不可能になる
第3回	首都圏のジリ貧に気づかない「地域間格差」論の無意味	第19回	日銀の異次元緩和は事実上の財政ファイナンス
第4回	「人口の波」が語る日本の過去半世紀、今後半世紀	第20回	第8回～19回までのまとめとレポート作成
第5回	地方も大都市も等しく襲う「現役世代の減少」と「高齢者の激増」	第21回	レポート作成
第6回	「人口減少は生産性上昇で補える」という誤った思い込み	第22回	新しい技術で生産性を高める
第7回	第1回から6回までのまとめと各自のレポート作成	第23回	成長するアメリカと停滞する日本
第8回	レポート作成	第24回	人工知能とビッグデータが広げる可能性
第9回	経済活動をとらえる経済指標 国民経済計算	第25回	新しいITサービスが変える市場経済の姿
第10回	製造業の縮小は不可避	第26回	本格的利用が始まったビットコイン技術
第11回	製造業就業者は全体のまで縮小	第27回	学校教育の問題
第12回	ピケティの仮説では日本の格差問題は説明できない	第28回	第22回～26回までのまとめとレポート作成
第13回	物価の下落は望ましい	第29回	レポート作成
第14回	異次元緩和政策は失敗に終わった	第30回	年間レポート作成
第15回	深刻な労働力不足が日本経済を直撃する	第31回	年間レポート作成
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅠ（労働経済・社会保障）		
	ゼミ担当者名	藤本 剛		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	わが国の労働経済・社会保障についての考察
ゼミの到達目標	わが国の労働経済・社会保障に関連するテーマについて調査し、レポートにまとめ発表する。
ゼミの概要	労働経済・社会保障に関する知識を身につけ、自ら選んだテーマについてわが国の実情を調べ、まとめる。
授業時間外の学習	新聞に丹念に目を通し、素材となるテーマについて検討し、理解を深める。
履修条件	意欲的に取り組む気持ちが必要である。また、ゼミナール構成員同士の交流や意見交換に積極的に対応できるよう心掛けてほしい。
テキスト	プリント等を用意する。
参考文献・資料	石畑良太郎他編著『よくわかる社会政策』第3版    『厚生労働白書』各年版    『労働経済白書』各年版 公務員Vテキスト『社会政策』第12版
成績評価の方法	出席状況、提出レポート、調査報告、ゼミ活動への積極参加姿勢 等から評価する。 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日の12時～13時    木曜日の17時～18時
成績評価基準	定期試験に準じる。
学生へのメッセージ	最初にゼミを担当してから38年になります。でも、最近10年間はこども園の兼務などもあってゼミから遠ざかっていました。昨年度から新たな気持ちでゼミ活動に取り組んでいます。昨年度の後半は、4グループがそれぞれの発案で、年金やコロナ、生活保護などの問題に取り組みました。今年度はどんなテーマが登場するか、楽しみです。

授業計画			
第1回	ゼミナール活動方針についての説明と話し合い。	第17回	グループごとの共同研究Ⅰ
第2回	社会保障制度の歴史と概観 社会保険	第18回	グループごとの共同研究Ⅱ
第3回	年金制度の概要	第19回	グループごとの共同研究Ⅲ
第4回	医療保険について	第20回	グループごとの共同研究Ⅳ
第5回	介護保険の仕組み	第21回	グループごとの共同研究Ⅴ
第6回	最低賃金と様々な賃金制度	第22回	グループごとの共同研究Ⅵ
第7回	失業のいろいろと雇用政策	第23回	グループごとの共同研究Ⅶ
第8回	雇用の多様化と女性の雇用	第24回	ゼミナール大会中間報告会
第9回	若者、高齢者、障がい、者外国人の雇用	第25回	グループ討議 もっと調べてみたい話は何？ その1
第10回	労働組合って何？	第26回	グループ討議 もっと調べてみたい話は何？ その2
第11回	グループ研究の準備Ⅰ	第27回	グループ討議 もっと調べてみたい話は何？ その3
第12回	グループ研究の準備Ⅱ	第28回	ゼミナール大会予選
第13回	グループ研究の準備Ⅲ	第29回	ゼミナール大会本選
第14回	グループ研究の準備Ⅳ	第30回	ゼミナール大会の反省と意見交換
第15回	グループ研究の準備Ⅴ	第31回	今年度のゼミ活動を振り返って
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (環境学)		
	ゼミ担当者名	村中 孝司 (むらなか たかし)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食料問題や農林業問題の視点から、環境と経済の問題を考える。</li> <li>2. 研究の成果を発表し、口頭や文章で表現する方法を学ぶ。</li> <li>3. 自分自身が大学生4年間でやり遂げた成果を1つ作るための準備を行う。</li> </ol>
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食料と農林漁業に関する問題、自然風景の評価手法、生物多様性に関する問題など、多様な視点から地域課題に関するテーマを調査し、環境や地域に対する理解を深めます。</li> <li>2. メンバーの発表をよく聴き、質問や意見を述べる力を身につけます。</li> <li>3. 学術書をよく読み、文章を良く理解し、自分で表現する力を身につけます。</li> <li>4. 大学生としてどのような学業を修めたか作るため、1つの研究テーマを見つけます。</li> </ol>
ゼミの概要	<p>自然、環境、社会の関係に着眼し、持続可能な社会の構築を考えることを目標にしています。自然や社会における問題を発見し、解決に導く勉強を行います。また、フィールドワークを併せて実施します。座学の勉強だけでは、本質的な問題を発見することは難しいからです。自然界や社会に対する皆さんの観察眼が向上し、問題を見つけ出す力を養成します。</p> <p>ゼミの内容は、①輪読、②研究活動の2つです。</p> <p>① 輪読では、環境、農業、自然科学などをテーマとした学術書を、年間を通して1冊読み、知識と考え方を身につけます。どの教科書を読むかについては、ゼミが始動してから相談して決定します。</p> <p>② 研究活動では、2人以上のメンバーによって1つのテーマを決め、相互に協力しながら研究を行います。研究のテーマは、環境、食、農林漁業、生物多様性、自然風景などから、関心のあるテーマを教員と相談しながら見つけることから始まります。これは、4年次に作成する卒業論文のための事前準備です。2年生のゼミは、研究のスタートラインと位置づけますので、1年間かけて研究テーマをじっくりと探してください。</p>
授業時間外の学習	<p>図書館や自宅では本や論文を読み、知識や文章の書き方、論理的な説明の方法を学んでください。ゼミナール内外の仲間たちとも、よく議論してください。ただ漠然と日常を過ごすのではなく、どこかに興味深い問題が転がっていないか、探索する眼を養ってください。あらゆる場所に、興味深いテーマは落ちています。</p>
履修条件	<p>次の①、②の条件をともに満たす者としてします。</p> <p>① 研究活動に熱心に取り組むことができる者。</p> <p>② 自然科学概論Ⅰ・Ⅱ、基礎数学Ⅰ・Ⅱ、統計学、自然と地理、地理学の基礎Ⅰ・Ⅱ、総合科目Ⅰ・Ⅱ(村中クラス)、地球環境学、地域フィールドワークの中から、4単位以上を履修済みの者。ただし、上記の科目を履修していない場合であっても、個別に相談に応じる。</p>
テキスト	ゼミナール中に紹介します。(以下の授業計画は『フードシステムと日本農業』のものを示す)
参考文献・資料	ゼミナール中に紹介します。
成績評価の方法	<p>① 輪読(50%)、研究(50%)</p> <p>② ①に対してそれぞれ、発表(50%)、他者への質問・コメント・意見・議論等(50%)</p> <p>出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	火曜日 14:40~16:10、水曜日 14:40~16:10
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>大学は学問に取り組むところです。学問に対して真剣に取り組むのならば、どのようなテーマでもよいと思います。自信を持って他者に自慢できる研究を行ってほしいと願っています。ゼミナール研修会(夏期)は、リゾートしらかみ号に乗り、白神山地十二湖(青森県深浦町)へ日帰り遠足に行く予定です(要望があれば、行き先変更可能)。学生相互の親睦は、研究活動によ</p>

って養われることをモットーとしていますので、親睦会をほとんど実施しません。もし、みなさんの要望が数多くあれば実施することもあります。

授業計画（環境学ゼミナールⅠ）			
第1回	ガイダンス 体験入室①	第17回	研究⑨ 討論の方法、ディベート
第2回	ガイダンス 体験入室②	第18回	輪読⑦ 外食産業の現状とこれから
第3回	研究① 自然現象・社会現象を観察する	第19回	輪読⑧ 食品小売業の現状と日本農業、日本の食
第4回	研究② 自然現象・社会現象を記録する 観察記録の方法	第20回	研究⑩ 研究成果の表現方法、文章の執筆
第5回	研究③ 文献から学ぶ 文献から得られる情報収集	第21回	輪読⑨ 消費者の食品選択行動と市場
第6回	研究④ 教科書・専門書の読解、文章理解	第22回	輪読⑩ 食品の価格と品質の調整システム
第7回	研究⑤ 統計データから学ぶ 統計資料の収集	第23回	研究⑪ 調査の実践、統計資料調査
第8回	輪読① フードシステムをどのようにとらえるか	第24回	輪読⑪ 食品の安全、信頼の確保とその考え方
第9回	輪読② 農業の展開と産業構造	第25回	輪読⑫ 食品廃棄と食品産業、消費者の行動
第10回	研究⑥ 学術論文、先行研究の収集	第26回	輪読⑬ 食生活と健康、食文化
第11回	輪読③ 農業経営体の多様化と企業形態	第27回	研究⑫ 研究成果事前報告
第12回	輪読④ 農業経営の存続と市場	第28回	研究⑬ 研究成果報告、討論
第13回	輪読⑤ 農産物・食品卸売業の展開と産業構造	第29回	輪読⑭ 食糧の貿易と日本農業、日本の食
第14回	輪読⑥ 食品製造業の展開と産業構造	第30回	輪読⑮ 世界の農業・食料の制度と政策
第15回	研究⑦ グループ研究の準備	第31回	研究⑭ 自主研究テーマの考案（中間報告）
第16回	研究⑧ 自主研究テーマの考案（提案）	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (キャリアプランニング)		
	ゼミ担当者名	横田 恵三郎		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	キャリアプランニングの基礎を学び、その考え方や自己を理解し観光業界の企業や職種を把握したうえで、卒業後の進路の目標を徐々に定めていく。
ゼミの到達目標	就職先の方向性を得ることが出来る。
ゼミの概要	充実した幸せな仕事や人生を送るためにキャリアプランニングの概念を学び、これまでの人生を振り返りつつ3年生後期に向け、実際に目標と計画を立て、就職先を選択する動機付けを得ることを目的とする。同時に社会人として必要なビジネスマナー等を身に付けることが出来る。
授業時間外の学習	興味ある業界について日々ニュース等により情報の収集にあたること(0.5時間程度)。
履修条件	今年度の観光インターンシップを履修する学生でかつホテル、旅行会社、航空会社、鉄道会社等の観光関連企業に進路を定めようとイメージしている者
テキスト	その都度プリントを配付する。
参考文献・資料	その都度案内する。
成績評価の方法	定期試験 50%、取組姿勢・態度 50%とし総合的に評価する。 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日：2限(10：40-12：10) 木曜日：2～3限(10：30-14：00)
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	一口に観光系企業と言ってもホテル、旅館、旅行会社、鉄道会社、航空会社等たくさんの業界、企業があります。また、職種もいろいろあります。それらを理解しかつ自己の興味・関心と適性・能力に対して理解を繰り返した上で、3年生後半に向けて進むべき方向性を得て欲しいと思っています。社会人として必要なマナーも学んでいきたいと思っています。

授業計画			
第1回	オリエンテーション① (トライアル参加) キャリアプランニングとは 四つの想像力①	第17回	個人面談②
第2回	オリエンテーション②(トライアル参加) キャリアプランニングとは 四つの想像力②	第18回	敬語の使い方 尊敬語・謙譲語・丁寧語
第3回	自己紹介 個人面談①	第19回	ビジネス敬語演習① お客様には失礼な表現
第4回	個人面談②	第20回	ビジネス敬語演習② 二重敬語
第5回	自己理解① これまでの人生を振り返る(小学校・中学校)	第21回	ビジネス敬語演習③ いつのまにか定着してしまった誤った敬語
第6回	自己理解② これまでの人生を振り返る(高等学校)	第22回	ビジネス敬語演習③ 経緯の対象が不明確な敬語
第7回	自己理解③ ポジティブとネガティブ	第23回	ビジネスマナー① 挨拶と第一印象と
第8回	自己理解に基づく自己PRの作成・発表①	第24回	ビジネスマナー② 電話応対
第9回	自己理解に基づく自己PRの作成・発表②	第25回	ビジネスマナー③ メール
第10回	グループワーク演習① チームワーク	第26回	世の中の職種を知る
第11回	グループワーク演習② コミュニケーション能力 伝えると伝わる	第27回	業界を知る① 宿泊業界
第12回	グループワーク演習③ スピーチ	第28回	業界を知る② 旅行業界
第13回	グループワーク演習④ ディスカッション	第29回	業界を知る③ 航空・鉄道業界
第14回	接客五原則	第30回	業界を知る④ その他の観光系業界 まとめ
第15回	前期まとめ	第31回	定期試験
第16回	個人面談①		